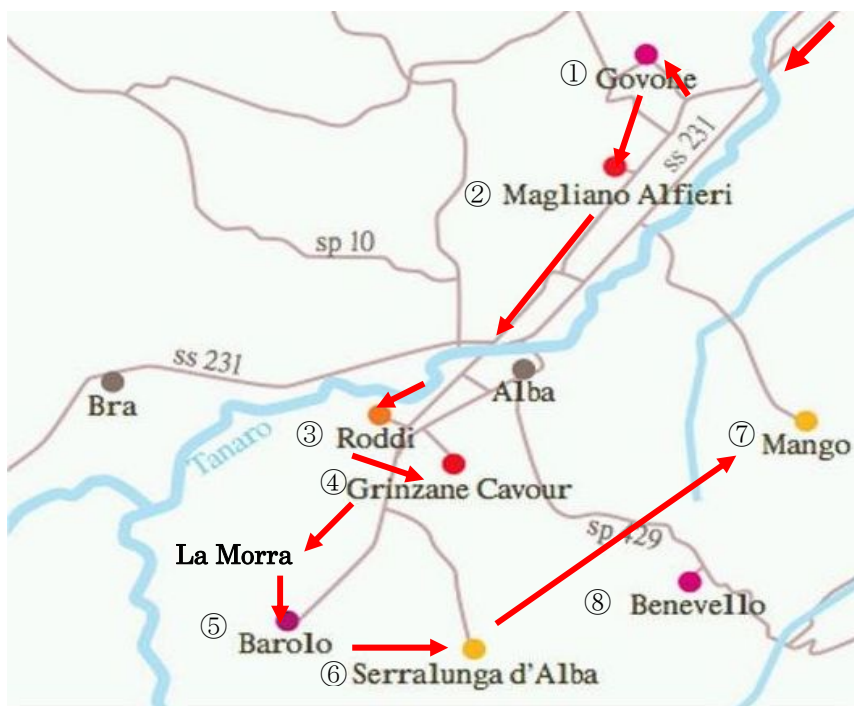


## ランゲ (Langhe)

今回は、合計7名が参加した特別企画の「ピエモンテのお城とワインを満喫する旅」です。生憎の曇り空で途中では雨も降ってきましたが、車での移動には悪天候も無関係で楽しく旅が出来ました。運転手さんには感謝が絶えません。

ランゲとは、この地方の方言で、“水の流れによりつくられた深い谷のまわりにある「丘」”という意味だそうです。白トリフで有名なアルバがランゲの中心の街です。アルバを流れているタナーロ川の東側がランゲ地方と呼ばれ、西側がロエーロ (Roero は昔の領主の名前から、スローフードの発祥の地であるブラが中心の街) 地方と呼ばれています。今回の企画は、ランゲ地方とロエーロ地方の城をめぐり、美味しいピエモンテ料理とバローロ・ワインを満喫することです。今回訪ねた城は7つです。8つのお城を訪ねる企画でしたが時間がなく、そのうちの7つを訪ねました。



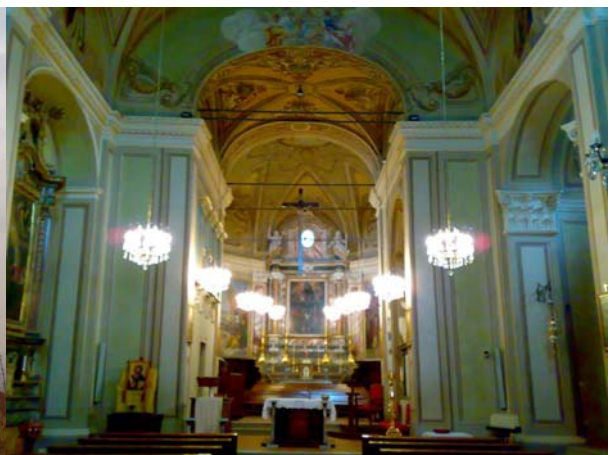
- ① Govone,
- ② Magliano Alfieri,
- ③ Roddi,
- ④ Grinzane Cavour,
- ⑤ Barolo,
- ⑥ Serralunga d'Alba,
- ⑦ Mango,
- ⑧ Benevello (今回は行けませんでした)

そして、レストランはバローロの北にある丘の上の村ラ・モッラのはずれにあり、食事をしながら周囲の葡萄園を見渡すことが出来る Bovio レストランです。ちょっと過密でしたが、非常に充実した旅でお城も食事もワインも全てを満喫することが出来ました。

アスティの街から 231 号線を南にアルバへ向かいましたので、必然的に、最初の城はロエーロ地方にあるゴヴォーネ (Govone) となりました。この村は路線バスの停留所を見つけることが出来ませんでしたので、多分、車でしか来ることが出来ないのだと思います。この村の丘の上に 10 世紀に城が建てられています。但し、現在の建物は 17 世紀のもので、城と整備された庭がとてもきれいです。ゴヴォーネの村もこの城を中心に小さくまとまった中世の雰囲気が残る田舎街で、つい、いつものように探索したくなります。それもあって、しかも今日最初に訪ねた街でもあるので、城と街の教会を見学してカフェでちょっとくつろいだだけなのですが、予定時間をオーバーです。その後の計画が少々不安となるスタートとなりました。



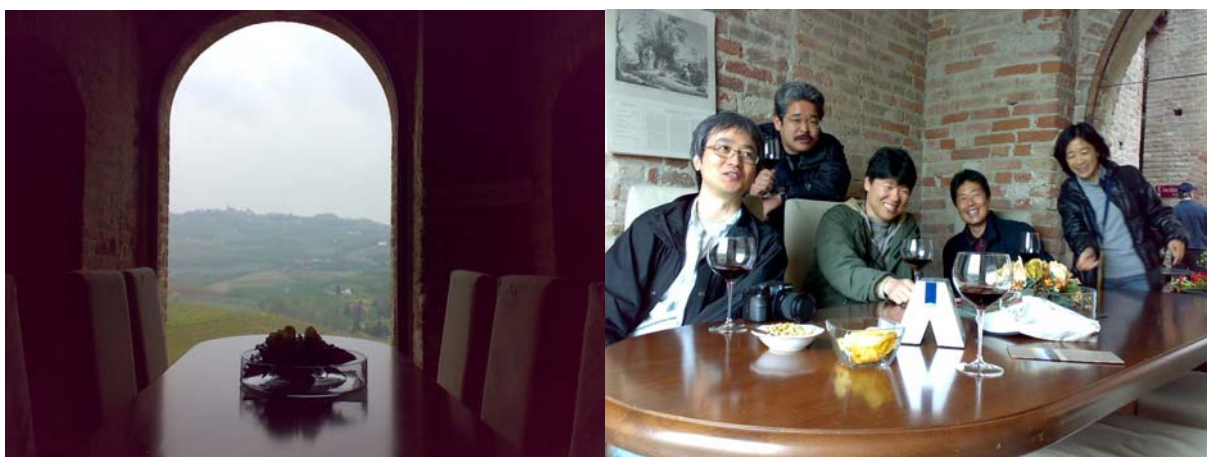
次の村はメリアーノ・アルフィエリです。ここにも 13 世紀に建てられた丘の上の城があります。城の正面が丘の斜面に面していて、正面からこの城を見るには丘の麓から見上げるしかありません。城の横の見晴らしの良い広場には街の教会があり、教会の内装は田舎の教会としては見事なものでした。また、城の裏通りからは城の中の高級レストランに入る入口があります。



タナーロ川を西から東に渡りランゲ地方に入って最初の城はロッディ (Roddi) です。この城も 14 世紀に建てられた丘の上の小さな城です。老朽化が進み、現在、修復中なのですが、団体客と一緒にガイド付の見学は可能とのこと。但し、後の予定が押し詰まっていますので、残念ながら修復中のフレスコ画をチラッと見ただけで次に向かいました。



食事時間が迫り、食事前の最後の城としてグリンツァーネ・カヴール（Grinzane Cavour）を訪ねました。この城は、領主であるカヴール家がワインの生産センターとしたことで、城の内部はワインの博物館となっています。お城のカフェで、大きなアーチ型の窓から葡萄園が広がる景色を眺めながらたしなんだバローロ・ワインは最高でした。



レストランで、周り一面の葡萄園を眺めながらピエモンテ料理（黒トリフのスライスがのったピエモンテ牛の子牛のステーキは最高でした）とバローロ・ワインを、ゆっくりと時間をかけて楽しみ至福の時を過ごした後は、近くの丘の上にあるラ・モッラ村でお土産のバローロ・ワインを購入です。



お土産の後は、まず、バローロの街からです。この城は10世紀にサラセン人に対する防衛のために造られたそうですが、13世紀中旬にバローロ領主となった Falletti 家<sup>④</sup>の居城となったことで Castello dei marchesi Falletti と呼ばれています。その後、度重なる改修を経ているので、現在の建物から10世紀の面影は見る事が出来ません。この城のワイン博物館は今年の春の完成となっていますが、何故かまだ完成していません。但し、お城の裏にエノテカ・レジョナーレがあり、そこで古いバローロ・ワインの展示を見ることが出来ます。もちろん、そこでワインの購入が出来ます。



今回の旅で、一番城らしい城は、バローロの次に行ったセッラルunga・ダルバ (Serralunga d'Alba) でした。丘の上に建てられた天にもそびえるばかりの城と城塔は13世紀に建てられたものだそうです。ここについては既に午後5時を過ぎていて、残念ながら城内への入場は出来ませんでした。



今回の旅の最後の城は、帰り道をちょっと寄り道して、このあたりで一番高い山の上にあるマンゴ (Mango) です。ここも、他のいくつかの村と同じように村の入口にはアーチ型の門があります。



以上で、今回の7つの城とバローロ・ワインとピエモンテ料理を満喫した旅は終了しました。ワインも料理も最高でしたし、車があるので気兼ねなく重いお土産のワインも購入できました。それに、途中で雨も降りましたが、車での移動なので、何不自由もなく7つもの城を訪ね、企画していたほぼ全てを満喫することができました。

アルバ、バローロはピエモンテ州クネーオ県に位置していて、ミラノから170-80キロくらいの距離です。アルバにはイタリア国鉄の駅がありますが、ヴォゲーラやアスティ経由で乗換えがあるため、片道でも3-4時間くらいかかってしまいます。更に、アルバからバローロ或いはラ・モツラ村や近郊の城までは、アルバの街から(もしバスが利用できれば)路線バスとなりますので、とても日帰りで行って帰って来るのは不可能なところですが、しかし、車を利用しますとたった2時間弱で行くことが出来ますので、今回のように、ゆっくりと昼食をとり、しかも7つの城を訪ねても日帰りが可能となった訳です。本当に車さまさます。運転手さんへの感謝は何度言っても足りないくらいです。

#### ⑨

Falletti家は、ジェノヴァの商人だったのですが、同じジェノヴァのSolaro家やドイツ出身のTroja家とともに、ジェノヴァとヨーロッパ地域への中継基地として栄えていたアスティにおいて、金融業で大きく成長し、この時期は銀行家として主に金貸しをしていた貴族です。13世紀のアスティは教皇派(ローマ法王)と皇帝派(神聖ローマ帝国)の争いに巻き込まれていて、Falletti家は教皇派の一員として活躍し、13世紀中旬にアスティ教区からバローロを領地として与えられています。それから、15世紀後半にこの地をモンフェラートによって支配されるまで、バローロを治めていました。